

Q&A

検診の上部消化管造影検査が契機となった 巨大胃粘膜下腫瘍

【問題】

症例：38歳，女性。

主訴：なし（検診で指摘された胃隆起性病変精査）。

既往歴：心室中隔欠損症（0歳時，経過観察）。

家族歴，生活歴：特記事項なし。

現病歴：検診の上部消化管造影検査で胃隆起性病変を指摘され，当院へ紹介となった。他に，子宮筋腫と鉄欠乏性貧血も指摘されている。

血液検査：WBC 6510/ μ l，RBC 480万/ μ l，Hb 10.4g/dl，Ht 33.8%，PLT 45.6万/ μ l，TP 7.7g/dl，Alb 4.6g/dl，BUN 6mg/dl，Cr 0.43mg/dl，

T-Bil 0.4mg/dl，AST 13U/l，ALT 10U/l，LDH 162U/l，ALP 147U/l，AMY 79U/l，CRP 0.02mg/dl，CEA 0.6ng/ml，CA19-9 7.5U/ml。

上部消化管造影所見（Figure 1），上部消化管内視鏡所見（Figure 2），腹部造影CT所見（Figure 3）を示す。

1. 考えられる疾患は？
2. 治療方針決定のため追加すべき検査は？

解答は（1789p）に掲載

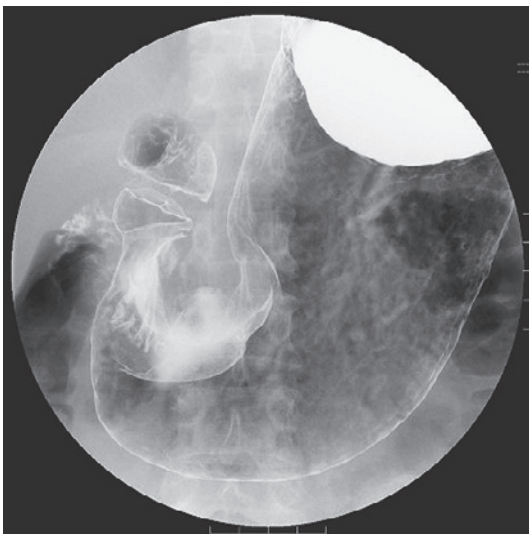


Figure 1. 上部消化管造影所見：胃体下部から前庭部前壁に径5cm大の表面平滑，立ち上がりならかな隆起性病変を認める。

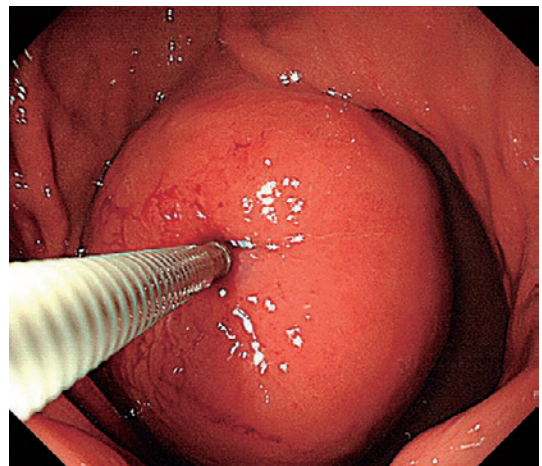


Figure 2. 上部消化管内視鏡所見：胃体下部から前庭部前壁に径5cm大の弾性軟な粘膜下腫瘍を認める。

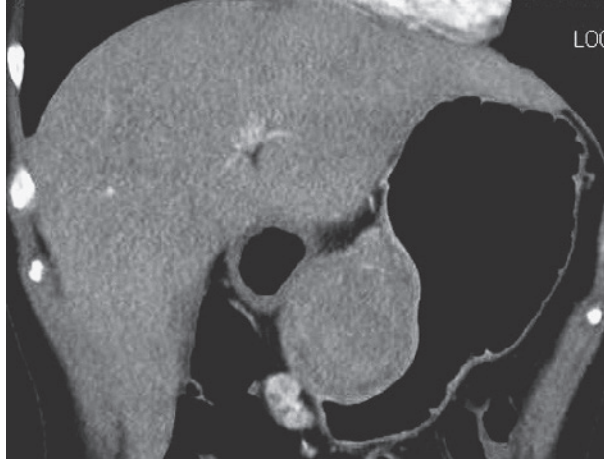


Figure 3. CT 所見：胃体下部から前庭部前壁に径5cm 大の粘膜下腫瘍を認める。左胃動脈周囲，右胃大網動脈周囲に造影効果を示す複数の腫大リンパ節が見られる。